

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170200473		
法人名	介護サービス九州株式会社		
事業所名	つくしんぼのグループホーム 唐津		
所在地	佐賀県唐津市和多田大土井2-35		
自己評価作成日	平成22年3月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigojouhou-saga.jp/kaigosip/Top.do
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成22年4月20日	外部評価確定日	平成22年5月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自立支援、予防を念頭に置いて、日々ケアを行っています。自立を「自己選択」「自己決定」と理解し、日々の生活の中でご利用者様へ自立を促し、病状悪化されない様に生活療法(家事)を行っています。ご利用者様に無理なく、生活リズムを整え、認知症予防等に力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

唐津市近郊の松浦川河畔に建つホームで、隣接した土手には季節の草花が咲き、つくしが生えるなど季節感あふれる環境に囲まれている。近くには唐津文化体育館や市民グラウンド・陸上競技場などの社会資源に恵まれ、入居者の散歩やイベント参加に活用されている。民家改修型のホームの中心には和室の居間があり、入居者が集う憩いの場となっている。横になる人、座る人、テレビを見る人、おしゃべりに興じる人、自発的に庭の草むしりをされる人など、和やかな団欒の場で思い思いにゆったりと時を過ごされている。入居者主体のケアを心掛けており、庭園には四季折々の花が咲き、昔懐かしい自然体の生活が営まれているホームである。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を各職員が理解し、母体の理念、事業所理念を毎日朝礼で唱和し確認し実践につなげています。	母体法人の理念をベースに、入居者一人ひとりの思いや地域住民との交流を大切に事業所独自の理念を作りあげている。管理者と職員は毎朝理念を唱和し、理念の確認を行っている。職員は入居者一人ひとりのあるがままを大切に、ともに生き・ともに生活することを意識して入居者と接している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型インフルエンザ流行の為に、外部者との交流を控えてきました。今後は以前の様に「地域の清掃」「鍋祭り」「花見」等参加、開催し交流を行う予定です。	自治会に入会し、地域の清掃活動や行事に参加している。入居者と地域住民が触れ合う機会を大切に、散歩や外出時には地域住民との会話を通した交流を心掛けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行っていない。今後は認知症サポーター養成研修を受けたいと思っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の会議で取り上げられた検討事項や勘案事項について、その経過を話し合い1つ1つ積み上げて行くようにしています。	運営推進会議は入居者や入居者家族、老人会会長、地域包括支援センター職員、地域住民が参加して2ヶ月に1回開催されている。会議ではホームの現状報告や活動計画、情報交換など活発な意見交換が行われている。出された意見や要望は即日検討され、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	最近ではメールでのやり取りができ便利になりました。事業所での事故発生時や実情等を報告し、担当者から指示等頂いています。	管理者は、地域包括支援センター職員や行政の担当者と連絡を取り合う関係を築いており、問題点や分からないことがあれば相談できる関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修等を通して「身体拘束をしないケア」を実践しています。日中、事業所内は全て施錠はしていません。今後も身体拘束の研修を開催し、深く理解して行きたいと思えます。	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。出入り口は施錠しておらず入居者は自由に行動でき、職員は見守りながら支援している。入居者本人の意思を尊重した言葉遣いをするように心掛け、精神的・言葉による苦痛の無いケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者の虐待の防止」の研修を行い、各職員が理解できる様にしています。今後も研修を重ね、深く理解して行き予防に努めて行きたいと思えます。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について研修を開催し、利用者が必要時は活用できるに行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	懇切、丁寧に行い不明な点はいつでも問い合わせ可能にしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご本人には日々のケアの中で要望等の情報収集を行い、ご家族に関しては面会時、利用者状況、要望等をお聞きしています。又、運営に反映しています。	職員は家族や入居者と話す事を心がけ、意見や要望の把握に努めている。重要事項説明書に苦情相談窓口・外部苦情申立機関・苦情解決の手順を明記し、投函箱も設置されている。出された意見や要望は検討し、ケアプランに反映させる等運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議、又日々の朝礼時に機会を設け職員の意見や、提案を聞いています。	毎月職員会議を開き、管理者は職員と話し合う機会を設けている。管理者は常に職員と話し、要望や意見を聞くように心掛けている。職員は日々のケアで気付いた事を業務日誌や介護記録に記入し、運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現在、非常勤の場合、給与水準が一定であり、年数に関わらず給与が同じなので、今後は見直したいと思います。又、非常勤の有給がないので検討したいと思います。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画に合わせ、毎月研修を行いトレーニングを行っています。又、日々のケア方法について不安な面はその都度事業所内で指導しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回、唐津市グループホーム研修に参加し、勉強・ネットワークに努め、サービスの質向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に担当者会議を開催し、ケアプランを作成し、利用者が少しでも安心して生活できます様に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に担当者会議を開催し、ケアプランを作成し、家族が少しでも安心できます様に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に担当者会議を開催し、ケアプランを作成し、その都度必要とする支援を臨機応変に行える様に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事業所理念を念頭に置き、暮らしを共にする関係を築く様にしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所理念を念頭に置き、暮らしを共にする関係を築く様にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が大切にしてきた馴染みの関係を継続する為に、各利用者の主治医は個々で違います。定期的を受診する度に、主治医を始め近所の方々とお会いする機会があり、お互いに挨拶を交わされています。	入居開始時や日々のケアを通じて入居者本人の生活歴や人間関係の把握に努めている。馴染みの店での買い物や昔懐かしい食べ物の話題、友人との継続した交流などを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操、掃除、食事作り、おやつ作り、散歩、ドライブ等を日々行い、利用者同士関わり、支え合える事業所作りを行っていますが、時折利用者同士口論になる時があります。その様な時は利用者同士が解決できる様な時は様子を見て、出来ない時は支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院され契約終了された利用者のお見舞いは継続し、別(福岡市)のグループホームに転居された利用者は事業所同士お互いに連絡を取り合っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプラン作成時は、可能な限り利用者の意向を尊重しています。	職員は日々の生活を通して入居者と会話する事を心掛けており、普段の会話の中から意向を汲み取るように努めている。希望や意向を表すことが困難な入居者には本人の立場に立って考えたり、家族の面会時や電話連絡などにより情報を得るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の関わりの中で情報収集し、ケアに役立っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で情報収集に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族には日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き、反映させるようにしています。アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、会議を行っています。	家族や入居者から要望を聞き、具体的な介護計画が立てられている。ケアマネジャー・管理者・職員など関係者でモニタリングが行われ、主治医の意見や家族の意見を取り入れて現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録方法を工夫し、統一したケアが行い視点を合わせ、申し送り等で職員間が情報を共有し実践しケアプランに反映しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族の個々のニーズに柔軟に対応できる様に勤務体制も工夫し取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の意向や必要性に応じて、ボランティア、消防、行政と協力をしながら支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医と連携を図りながら適切な医療を受けています。	入居者や家族の意向を大切にし、事業所の協力医の他、入居前からのかかりつけ医の継続受診を支援している。通院などの送迎は、本人や家族の要望に沿って支援している。受診後は病状の把握など家族に報告されている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問看護を利用させて頂き、お互いに情報交換を行い、状態変化の早期発見に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常に主治医やソーシャルワーカー、看護師と連携を図り、医療機関との協働に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、主治医、訪問看護、行政と連携を図りながら支援に取り組んでいます。	重度化対応や看取りに関する指針があり、契約時に本人及び家族に説明が行われ同意を得ている。入居者の状態に合わせて主治医や家族と話し合いを持つ体制ができており、家族と職員・主治医は方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月、誤嚥時の対応方法・心肺蘇生方法等事故発生時に備えて実践力を身に付ける様にしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対応マニュアルを基に、避難できる様に職員が身につけています。又、平成22年4月の消防訓練は夜勤時の火災を設定し、地域の協力を頂く予定です。	消防署指導の避難誘導訓練や消防訓練の他、事業所独自に入居者も参加しての訓練が毎月実施されている。地域消防団との協力体制を検討中である。	昼夜を通じた様々な発生時間を想定し、地域の人々の参加や協力を得ての避難訓練の実施も期待したい。

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人にとってその声掛けが適しているかどうか不明な点もあるが、人格の尊重を各職員が対応している。	入居者本人の人格を尊重した言葉掛けや口調に注意し、入居者の誇りやプライバシーを損ねることのないよう配慮している。個人情報の利用目的を明確にし、入居契約時に家族等に説明して同意書が交わされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	基本的に自己決定されている。迷う時は選択肢を提案し自己決定して頂く支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムはほぼ決まっているが、その場面、場面で利用者の希望を受け入れている。日々の流れの中で自然に過ごされている。月曜日～土曜日は生活療法(掃除)を取り入れているが日曜日はのんびり過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしく、過ごされている。状態変化しご自分で洋服の選択が出来なくなった人は、今までの好みを重視し職員が選び、利用者に確認を行い身だしなみを行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嫌いな食べ物は別の物と交換し、誤嚥のある方はきざみ食やトロミを使用しています。又、常に利用者と共に準備、片付けを行っています。	食事の盛り付け・配膳・下膳・食器洗いなど入居者ができることは職員が見守りながら支援している。配食サービスを利用しているが、週に1日は入居者の希望に沿った献立にし、おやつは毎日入居者といっしょに手作りしたり、外食を取り入れるなど食事が楽しみなものになるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人一人の活動量、病状に合わせて、主治医・訪問看護師と相談しながら栄養摂取量を決めています。食事量、水分量は記録を行い脱水予防に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、感染予防等に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄状況を把握、記録しながら自立に向けて支援しています。	入居者一人ひとりに合わせた排泄の自立支援を心掛けている。排泄記録を活用し、トイレで排泄できるように支援しながらパッドや紙パンツなど本人の必要に合わせて使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因を理解し、適度な運動や飲食物(牛乳含む)の工夫をしているが、上手く行かない利用者は主治医へ相談しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ある程度、本人の希望、体調・病状に応じ予定を決め入浴しています。当日、入浴したくなければ次日に行ったりしています。	入浴希望があればできる限り支援するように心掛けている。以前は夜間入浴を希望される入居者もおられ、希望に沿った支援がなされていた。職員とおしゃべりを楽しむ方、ゆっくりと一人で湯船に浸かる方など、入浴を楽しめる支援がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に応じて、休憩時間が違うのでその都度対応しています。又、就寝時間も違う為、同様にしています。又、安心して気持ちよく休める様に居室の温度・湿度・照明・布団等環境整備に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋表を各職員がいつでも確認できる場所に保管しています。又、症状の変化があれば主治医、看護師、訪問看護師へ相談し服薬支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々が役割を持っており、日々行っています。時折、散歩したり、ドライブしたり、外食することで気分転換を図っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者希望と季節に応じ、事業所で行事を予定しています。その際は、家族の協力や地域の協力を求めています。	敷地は広く、入居者は自由に戸外に出て散歩している。自発的に庭の草むしりをしたり、花の水やりをされる入居者もいる。近隣散歩や買い物など日常的な外出支援のほか、四季折々の花見やドライブなど入居者の希望に沿った外出支援もなされている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	受診、買い物をする際は、利用者にお預かりしているお金を渡し、支払い等行って頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば直ぐに対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、床の間には、季節花を飾り、利用者が季節を少しでも感じ、安心して生活できますように工夫をしています。	居間や縁側から眺める庭や川の土手には季節の木々や花・草花が咲き、果実が実り、居ながらにして季節を感じる事ができる。窓を開けて換気を心がけ、エアコンや加湿器で温度管理や湿度調節がなされている。テレビや音楽の音量に気をつけ、心地よい音になるよう配慮している。居間は床の間付きの和室で、家庭的で生活感のある場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者は殆ど居間で過ごされます。その居間を大勢で過ごす空間、少人数・一人で過ごせる空間を作り好きな様に過ごせる様に工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物に囲まれて、居心地良い様に過ごされています。	居室は広くて明るい。思い出の品を多く持ち込めるように支援され、筆筒や布団・テレビ・机・椅子などを持参されている。ソファやテーブルの配置を自宅と同じ設えにしている入居者もいる。室内は写真や手芸品・花などが飾られ、生活感が感じられる居室作りがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	常に整理整頓を心がけ、事故予防に努めています。利用者が生活の中で必要な物は位置を変えず「できること」「わかること」を妨げ無いようにしています。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない